
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2004年11月～12月）

気象庁

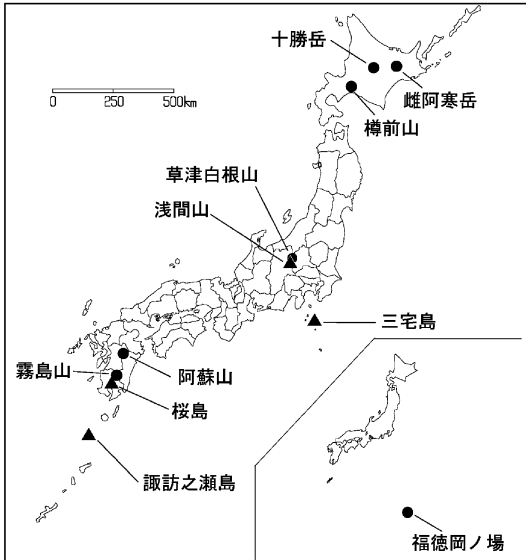


図 1. 2004年11月～12月に目立った活動があった火山

▲：噴火した火山

●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山

●雌阿寒岳（43°23'12"N, 144°00'32"E）

※各火山の位置は世界測地系による。

ボンマチネシリ96-1火口は、噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。地震の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

●十勝岳（43°25'05"N, 142°41'11"E）

62-2火口は、噴煙活動の活発な状態が続き、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる観測では、噴煙は白色で高さは概ね火口縁上200mで推移した。

11月17日23時56分頃から継続時間約2分の振幅の小さな微動が観測された。微動発生時の62-2火口の噴煙状況は悪天のため不明であったが、天候回復後に確認したところ火口近傍の雪面に降灰は認められなかった。微動の発生源は62-2火口周辺と推定され、山頂浅部における地下水や火山ガスが関係した小規模な現象と考え

られる。十勝岳で微動が観測されたのは、4月19日以来である。

地震の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

●樽前山（42°41'26"N, 141°22'36"E）

A火口及びB噴気孔群は、噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

●草津白根山（36°37'22"N, 138°31'55"E（本白根山））

12月1日04時25分に、継続時間が短く、振幅の小さい火山性微動が観測された。火山性微動が観測されたのは、2000年4月10日以来である。微動発生時に、監視カメラによる観測、地震活動及び地殻変動には特に変化は見られなかった。翌2日に実施した現地観測でも、湯釜湖面やその周辺の状況に特に変化は見られなかった。

▲浅間山（36°24'23"N, 138°31'23"E）

11月14日に中爆発が発生し、11月15～18日及び12月9日にごく小規模な噴火が発生した。

11月14日20時59分に中爆発が発生した。中爆発の発生は9月29日以来である。赤熱した噴石（火山岩塊）が火口から2～2.5kmの範囲内に飛散し、南西斜面では山火が発生した。火口の南約8kmの軽井沢測候所では大きい爆発音と中程度の体感空振を観測し、同測候所の空振計で計測した空振の強度は73パスカルであった（9月1日、23日及び29日に発生した中爆発では、それぞれ205、72及び30パスカルの空振を観測）。噴煙の状況は雲のため不明であったが、気象レーダーによると、噴煙は火口縁上3,500～5,500mまで上がったと推定された。軽井沢測候所からは火山雷も観測された。東京大学地震研究所及び防災関係機関等の調査によると、火口の風下側の東4km付近に直径4～5cm（最大径7.5cm）の火山礫が降ったほか、長野県、群馬県及び栃木県の一部で降灰が確認された（図2）。軽井沢測候所では、11月14日09時～15日09時の24時間に、0.2g/m²未満の微量の降灰を観測した。

また、11月14日の中爆発後、11月15～18日及び12月9日にごく小規模な噴火が発生した（表1）。

山頂火口からは、噴火時を除き、白色噴煙が連続的に噴出し、最高で火口縁上1,000mまで上がった。

11月5日及び26日には火口の北北東4km付近で

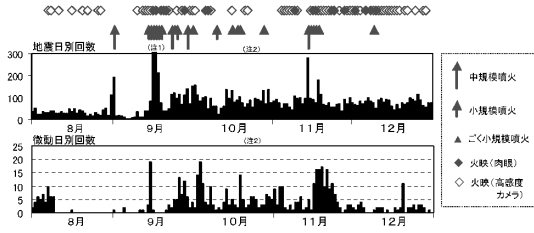


図 3. 浅間山 2004年8～12月の噴火、火映、地震及び微動の日別発生状況
 (注1) 9月16日の地震回数は1,406回、17日は同624回。
 (注2) 10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

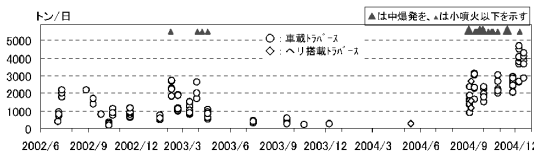


図 4. 浅間山 二酸化硫黄の放出量の推移 (2002年7月～2004年12月)

³⁾ 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

▲三宅島 (34°04'37"N, 139°31'34"E)

11月30日～12月9日に小規模な噴火が4回発生した。多量の二酸化硫黄の放出が続いた。

11月30日07時46分に小規模な噴火が発生し、火山灰を含む灰色の噴煙が火口縁上300mまで上がり、東に流れた。三宅島測候所が行った現地調査によると、三宅島空港付近(火口の東約4km)で微量の降灰が確認された。この噴火に伴い、低周波地震と空振が観測された。山麓で降灰が観測される程度の噴火が発生したのは2002年11月24日以来であった。

12月2日16時45分に小規模な噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上600mまで上がり南西に流れた。この噴火に伴い低周波地震と空振が観測され、島内で震度1(三宅村神着、三宅村坪田)が観測された。噴火に伴う地震で震度1以上が観測されたのは2001年11月1日以来であった。

12月8日朝、火口の東側約3kmの地点で微量の降灰が確認された。夜間の噴煙の状況は不明であったが、7

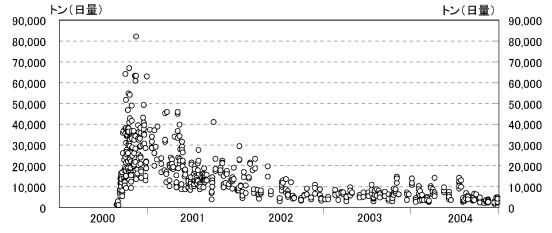


図 5. 三宅島 二酸化硫黄の放出量(日量に換算)(2000年～2004年)2002年秋以降、日量3千～1万トン程度で横ばい傾向を示していたが、2004年秋以降は、日量2千～5千トン程度とやや少なくなっている。

日17時～8日06時の間に空振を伴う低周波地震が数回観測されており、そのいずれかで小規模な噴火が発生したと推定される。

12月9日06時16分に小規模な噴火が発生した。悪天のため噴煙の状況は確認できなかったが、火口縁に設置された監視カメラと、火口の西南西約3kmに設置された監視カメラに火山灰が付着するのが確認された。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は火口縁上1,500mであった(前期間の最高は火口縁上1,000m)。

上空からの観測⁴⁾では、噴煙活動に大きな変化は見られず、山頂火口内の状況も11月末から12月上旬に発生した噴火の前後を含め大きな変化は見られなかった。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量1,800～4,800トンで依然多い状態であった。二酸化硫黄の放出量は、2002年秋以降、日量3千～1万トン程度で横ばい傾向を示していたが、2004年秋以降は、日量2千～5千トン程度とやや少なくなっている(図5)。

赤外熱映像装置³⁾による観測では、火口内の最高温度は198℃で(12月21日の観測)依然として高い状態にあった(前期間は10月14日の観測の164℃)。また、全磁力の連続観測では特に変化は見られず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

12月2日の噴火後、3日18時頃までに地震が多発し、日別地震回数は2日が374回、3日が451回であった。また、12月2日の噴火に伴うものを含め、震度1以上が観測された地震が4回発生した。2003年4月以降活発な状態で推移している振幅の小さいやや低周波地震の活動は、12月2～3日の地震多発を反映して、月回数が11月955回、12月1,308回と12月に増加し、多い状態であった(前期間は9月431回、10月783回)。また、低周波地震及び高周波地震は2002年秋以降活動の低い状態が続いていたが、低周波地震は12月に増加して222回観測

され(2002年12月~2004年11月の月別回数は0~11回),高周波地震は12月5日に75回と多発した(2002年12月~2004年11月及び12月のその他の日別回数は0~9回)。

火山性連続微動の振幅は2002年末以降大きな変化は見られていない。また、GPS観測によると、三宅島のゆっくりした収縮を示す地殻変動が続いている。

⁴⁾11月2日,9日,16日,12月9日,21日及び27日に警視庁,航空自衛隊,東京消防庁及び海上保安庁の協力により気象庁が実施。12月9日は火山ガス観測のみ実施。

●福徳岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

11月24日に海上自衛隊が行った上空からの観測によると,福徳岡ノ場周辺から西北西へ伸びる幅約300m,長さ約2,000mの緑色変色水が観測された。

●阿蘇山 (32°53'01"N, 131°05'49"E (中岳))

中岳第一火口では,湯だまり⁵⁾の色は緑色から11月後半には灰緑色に,12月後半には緑色に変化した。湯だまり量は期間を通して約8割で推移した。湯だまりの表面温度は62~72°C,火口壁の最高温度は126~161°Cで,前期間に比べ大きな変化はなかった(前期間はそれぞれ61~74°C及び127~187°C)。湯だまりの中央,西及び南西側で噴湯現象が観測された。土砂噴出は観測されなかった。

噴煙の状況は,今期間を通じて白色で,噴煙高度の最高は火口縁上600mで通常と比べ変化はなかった。

火山性微動は,連続微動が11月12日に発生し,継続時間の短い微動が11月に112回発生したが,12月は7回と減少した。孤立型微動の発生回数は,11月1,685回,12月2,060回であった(前期間は9月1,587回,10月2,164回)。

また,A型地震が12月にやや増加し,12月の月回数は162回であった(11月は63回)。B型地震は11月に466回,12月に672回発生し,前期間(9月79回,10月344回)より増加した。

GPSによる地殻変動観測では火山活動に起因する変化は見られなかった。

⁵⁾湯だまり:活動静穏期中の中岳第一火口内には,地下水などを起源とする約50~60°Cの緑色のお湯がたまっており,これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ,湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ,その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

●霧島山 (31°56'03"N, 130°51'42"E (韓国岳))

御鉢火口内で2003年12月に確認された噴気孔からの噴気活動は,消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で,監視カメラで火口縁上50~300mまで上がる噴気が時々観測された。

11月21日04時13分に御鉢火口付近を震源とする振幅のやや大きな火山性微動が発生した。微動の継続時間は5分であった。微動発生直後から御鉢火口付近の火山性地震がやや増加し,21日には10回観測された(11月の月回数は22回)。監視カメラでは噴気活動に特に変化は見られなかった。11月24日に実施した御鉢火口の現地観測では,新たな噴出物はなく噴気活動も特に変化は見られなかった。振幅のやや大きな火山性微動が発生したのは今年3月26日以来であった。

新燃岳付近では,地震活動は低調で火山性微動は発生しなかった。

▲桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

11月10日と11月18日に爆発的噴火(以下,爆発)が発生した。噴火の発生は8月14日以来,爆発の発生は7月2日以来であった。11月10日の爆発では爆発音,噴石は観測されず,体感空振は強風のため不明であった。噴火に伴い灰白色の噴煙が高さ火口上800mまで上がり北西に流れた。11月18日の爆発では爆発音,体感空振は観測されず,噴石及び噴煙の状況は雲のため不明であった。期間中,爆発以外にも時々有色の噴煙が火口上100~600mまで上がるのが観測された。

期間中,鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

また,11月6日19時26分に南岳直下を震源とする地震が発生し,島内で有感となった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

11月下旬及び12月下旬に噴火活動が活発となった。

噴火が11月19日,21~24日,11月29日~12月1日,12月19~25日,27日及び29日に発生し⁶⁾,爆発的噴火(以下,爆発)が5回発生した(12月22日,24~25日,27日及び29日に各1回)。

11月19日08時38分の噴火では灰白色の噴煙が火口縁上高さ300m,11月23日15時15分の噴火では同500mまで上がっているのが監視カメラで観測された。十島村役場諏訪之瀬島出張所(以下,出張所)によると,11月21日及び30日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰があり,12月1日に多量の火山灰を含んだ噴煙が上がり西へ流れているのが確認された。また,12月19日13時過ぎから21日07時頃,及び21日昼頃から22日にかけて

て火山灰を含む噴煙が上がっているのが確認され、21日午後には高さ火口縁上 800m で南東に流れる灰白色の噴煙が確認された。その後、23～25日及び29日にも時々火山灰を含む噴煙が上がっているのが確認された。噴煙高度の最高は、12月1日及び12月20～23日の火口縁上 800m であった⁶⁾。なお、爆発時の噴煙の状況は、雲もしくは夜間のため不明であった。出張所によれば、12月は集落で降灰はなかった。

火山性微動は、継続時間の短いものが、11月21～27日、12月19～25日、27日及び29日にやや多く発生し、12月20日には日回数60回と多発した。また、11月26日、12月21日13時30分頃～21時30分頃及び12月22日09時30分頃～21時頃に連続微動が発生した。

火山性地震は、12月20日～25日に日回数22～32回とやや多く発生した。

⁶⁾十島村役場諏訪之瀬島出張所からの報告及び監視カメラ（御岳の北北東約25kmの中之島に設置）の観測による。

（文責：気象庁火山課 長谷川嘉彦）

○研究員公募のお知らせ

【東京工業大学21世紀COEプログラム】

1. 職種・人員：21世紀COE研究員（PD, EPMA担当）1名
（今回の公募の主旨）COEプログラムに基づき以下の21世紀COE研究員（PD）を公募いたします。なお、本公募で採用される研究員は、本プロジェクト地球史研究センターに所属し、研究のほかEPMA装置の維持・利用者教育等に週に20時間程度従事していただきます。21世紀COE「地球：人の住む惑星のできるまで」については以下のURLをご参照下さい。
<http://coe21.geo.titech.ac.jp/index.html>
2. 専門分野：広い意味での地球惑星科学
（研究内容）本プロジェクトの主旨を理解し、かつ、EPMA装置（JXA8800、地球惑星科学専攻）の維持およびそれを用いた研究を遂行できる人材を歓迎します。
3. 応募資格：博士の学位を取得した者（平成17年3月取得見込みを含みます）
4. 待遇・任用期間：単年度契約（非常勤職員、週30時間勤務、時給1,800円～2,300円：経歴に基づく格付けによる）ですが、本人事に関してはCOE期間内（平成20年度まで）の更新・継続任用を予定しています。なお、本プロジェクトの中間審査が平成18年度におこなわれます。

5. 着任時期：平成17年4月1日以降で、できるだけ早い時期
6. 応募書類：
 - ・履歴書
 - ・業績日録（査読雑誌掲載「論文」とそれ以外の「総説等」に分けてください。）
 - ・主要論文（3篇以内）の別刷（あるいはそのコピー）
 - ・EPMA装置を用いたこれまでの研究実績と本職に採用された場合の研究計画
 - ・応募者に関する所見をうかがうことのできる方、1ないし2名の氏名及び連絡先
7. 応募書類の締切：平成17年2月4日（金）必着
8. 応募書類送付先ならびに問い合わせ先：
〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻
21世紀COE研究員（EPMA）選考委員会委員長
高橋栄一
Tel: 03-5734-2338 Fax: 03-5734-3538
E-mail: etakahas@geo.titech.ac.jp

○第23回震災予防協会主催講演会「富士山の生い立ちと火山防災」

富士山は国内の他の火山に比べて山体が大きく防災対策には広域的な検討が必要であり、次の噴火形態の想定等に技術的課題が多くあることなどから、富士山周辺の住民避難に資する火山防災ハザードマップの作成が進められてきた。その従来と異なる特徴や地域での活用の実態とともに、富士山の成り立ちや火山としての性格について3人の講師に講演いただく。

主催：財団法人震災予防協会、NPO法人日本火山学会
後援：（社）地盤工学会、（社）土木学会、（社）日本機械学会、（社）日本建築学会、（社）日本地震学会、日本地震工学会

協力：財団法人 神戸国際観光コンベンション協会
日時：2005年2月3日（木）13:30-16:40
場所：パシフィコ横浜・アネックスホール（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

- （プログラム）
司会・趣旨説明 栗原 新 講演会企画委員会委員
13:30-13:35 開会挨拶 渡辺秀文（日本火山学会会長）
13:35-14:35 富士山ハザードマップ報告—特徴、他マップとの内容・活用の違い—（仮題）
荒牧重雄（山梨県環境科学研究所・東京大学名誉教授）
14:35-15:10 地方における富士山の火山防災の取り組み

みについて

杉原英和 (神奈川県防災局防災消防課計
画班主管)

15: 20-16: 20 富士山, その生い立ちと未来一火山の地
下の様子を理解する一

藤井敏嗣 (東京大学副学長)

16: 20-16: 40 まとめ

参加費: 1,000 円 定員 200 名 (先着順)

申込み方法: 講演題目 (第 23 回「火山」), 氏名, 勤務先
(参加者が複数以上の場合には連絡先代表者の所
属), 連絡先住所, 電話番号, FAX 番号を明記して
(書式自由), 郵送, FAX, メールいずれかでお
申込み下さい. 参加費は当日受付でお支払い下さ
い. 参加券を, メールで申し込みの方にはメール
で, FAX の方には FAX で, 郵送の方には郵便で
お送りします.

申込み問合せ先: 〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
建築会館 財団法人震災予防協会
電話: (03) 3457-7453
FAX: (03) 3457-7076
メール: office@aedp-jp.com

○Early Earth Symposium 開催のお知らせ

P074 初期地球惑星誌: 太陽系星雲から生命の誕生に至
るまで

Earliest History of the Earth and Planets Conveners: E.
Takahashi, T. Kakegawa, Y.Abe and Jim Kasting

2005 地球惑星科学合同大会の共通セッションとして
上記の英語による国際セッションを開催します. この国
際セッションは東京工業大学, 東北大学, 東京大学の 3
つの COE 拠点が共同で開催するもので, 「我々の地球に
おいて生命が発生し進化しえたのはどのような必然・偶
然によるのか」, 天文学, 惑星科学, 高温高圧実験, 宇宙
地球化学, 地質学, 生命環境学などの専門に根ざした研
究発表と分野の枠を超えた討議を目指します. それぞれ
の分野をリードする 10 人の研究者を海外から招聘しま
す. 大学院生にとっては記念すべき国際会議デビューの
場として, 研究者にとっても時間をかけて突き詰めた議
論をする場として, またとない機会になるでしょう. わ
が国のあらゆる大学, 研究機関から多数の参加希望者を
募ります. 口頭講演, ポスターいずれも英語で発表する
こととなりますが, 合同大会の最初の試みを成功させる
ために一人でも多くの皆さんの投稿をお待ちしていま
す.

また, この国際セッションにあわせて, 比較的少人数
で (最大 90 人) テーマを絞った議論と親睦を深めるた

め, 泊り込み合宿スタイルの Discussion Meeting を開催
します. 各セッション (3 時間) ごとに, 外国人招待講演
者を含む 2-3 名に基調講演を依頼し, その後, 参加者全
員による討論を予定しています. こちらもふるってご参
加ください. 学部生, 修士課程院生の参加も歓迎します.
世話人: 高橋栄一 (代表) etakahas@geo.titech.ac.jp

掛川 武 kakegawa@mail.tains.tohoku.ac.jp

阿部 豊 ayutaka@eps.s.u-tokyo.ac.jp

主な外国人招待者 (*日程調整中):

Planetary Science: Robert N. Clayton (Univ. of Chicago),
Jonathan Lunine (Univ. Arizona), * Doug Lin (U.C. Santa
Barbera), Kevin Zahnle (NASA)

Earth Interior: H. O'Neill (ANU), B.J. Wood (Bristol
Univ), S. Karato (Yale Univ) Early Earth Atmosphere:
Jim Kasting (Penn State)

Early Life: Euan Nisbet (Univ. of London), Roger Buick
(Univ. of Washington), Nic Beukes (Rand Afrikanus
Univ, South Africa)

合同大会国際セッション (幕張メッセ 5 月 22-26 日, ス
ケジュールは 3 月中に決まります)

合同大会申し込み要領: 締め切り 2 月 21 日

合同大会ホームページから登録して申し込んでくださ
い.

一人で複数のセッションに筆頭著者として論文発表がで
きます.

<http://www.epsu.jp/jmoo2005/>

Discussion Meeting スケジュール (暫定)

海外職業訓練センター (幕張)

<http://www.ovta.or.jp/div/facilities/index.html>

5 月 19 日 外国人 招待者チェックイン

20 日 13: 00-15: 00 参加者登録

15: 00-18: 00 セッション-1 (惑星形成)

19: 00-22: 00 セッション-2 (内部進化)

21 日 9: 00-12: 00 セッション-3 (大気環境)

14: 00-17: 00 セッション-4 (初期生命)

19: 00-22: 00 バンケット

22 日 9: 00-12: 00 セッション-5 (総合討論)

Discussion Meeting 参加申し込み: 先着 90 名以内

参加費 2 泊 2 食 (25,000 円: 正参加者・JSPS-DC, 18,000
円: 院生・学生) の予定

詳しくは, 東京工業大学 21 世紀 COE 「地球: 人の住
む惑星ができるまで」ホームページ <http://coe21.geo.titech.ac.jp/index.html> を参照してください.

参加希望者はメールで事務局 (coe21@geo.titech.ac.jp)

に下記の必要事項を記入の上お送りください。後日事務局より受付番号と料金振込み方法をお知らせします。

****Early Earth Discussion Meeting 参加申し込み****

氏名 フリガナ
 年齢 性別
 所属
 身分
 住所
 メールアドレス
 チェックイン予定日: 5月 日
 チェックアウト予定日: 5月 日

○AOGS 開催案内

AOGS (Asia Oceania Geosciences Society) の第 2 回年会は 6 月 20-23 日にシンガポールで開催されます。現在、予稿を受け付けています（締切が 3 月 1 日まで延期されました）。

<http://www.asiaoceania-conference.org/>

昨年開催された第 1 回年会には、アジア・大洋州を中心に約 1000 名が参加しました。今年も同様な数の参加が見込まれます。ふるってご参加ください。年末に発生したスマトラ地震とインド洋の津波の特別セッション (SE32) も追加しました。

以下は固体地球関係の特別セッションの一覧です。

- SE01 Active faults, Earthquakes, and Seismic Hazards in Urban Areas
- SE02 Interdisciplinary studies in the continental crust to understand the governing process
- SE03 Deformation and fluid flow in the Earth
- SE04 Integrated studies of faulting and earthquakes: field observation, laboratory experiments, and numerical simulations
- SE05 Seismicity and earthquake prediction
- SE06 Inversion for seismic source complexity
- SE07 Slow slip events in subduction zones: Observations and geophysical models
- SE08 Monitoring various flows on the Earth with satellite gravity missions
- SE09 Dense GPS arrays as a new sensor of the Earth
- SE10 Taiwan Chelungpu-fault Drilling Project
- SE11 Stress transfer and crustal deformations
- SE12 Fundamental Structural Geology
- SE13 Lithospheric Structures and Geodynamics of the Plate Collision/Subduction Boundaries
- SE14 Airborne and Space-borne Optical and Microwae Remote Sensing of Ocenia and the Pacific Regions

- SE15 Fault-zone drilling
- SE16 Tectonics of Asia and Oceania
- SE17 Modelling and Simulation of Volcanic Surface Flows, Flood Flows, Debris Flows, Landslides, and other Gravity Currents: Mitigation and Hazard Mapping
- SE18 Historical seismology and paleoseismology in Asia and Oceania
- SE19 Rotation of the Earth's Inner Core
- SE20 Geodynamics - Magma to Mud
- SE21 Large Scale Silicic Magmatic Systems
- SE23 Active Tectonics of the Himalayan Collision Belt
- SE24 Structure and evolution of cratons - New insights
- SE25 Fractals and chaotic dynamics in Geosciences
- SE26 Continental Flood Basalts and Deep Earth Dynamics
- SE27 Regional crustal models from integrated studies
- SE29 Progress In Gravimetry
- SE30 Himalayan Foreland: Tectonics and Sedimentation History
- SE31-PS18 Comparing Earth and Mars
- SE32 Special session on the December 2004 Earthquake/ Tsunami in Indian Ocean

○特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」からのお知らせ (2 件)

(1) 2005 年地球惑星科学関連学会合同大会スペシャルセッション

2005 年地球惑星科学関連学会合同大会 (日時: 2005 年 5 月 22 日~26 日, 会場: 幕張メッセ国際会議場) のスペシャルセッションに多数の御参加をお願いします。

- ・セッション名: 火山爆発のダイナミクス: 噴火シミュレータの基礎と火山防災への展望
- ・代表コンピナー: 石峯康浩 (防災科学技術研究所), 共同コンピナー: 福島大輔 (京都大学)

概要: 火山学の目標のひとつは、マグマの上昇から災害要因の発生までを含めた噴火過程の総合的な理解であり、各種の研究の進展は、予測能力をもつ「噴火シミュレータ」を生み出すことを可能にするだろう。噴火シミュレータの構築に向けて、基礎研究はどこまで進んでいるのか、予知や防災に役立てるために、シミュレータの形態はどうあるべきなのか、社会的な視点を含め、関連した話題を広く集めて議論する。

(2) 特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」年度末シンポジウム

日 時: 2005 年 3 月 2-4 日

場 所: 東京大学地震研究所第 1 会議室 (本館 5 階)

今年度は、通常の研究発表に引き続いて、噴火シミュレータに関する特別セッションを設けております。活発な議論をお願い致します。プログラムは下記のホーム

ページを御参照ください。

<http://www.ganko.tohoku.ac.jp/touko/tokutei/sympo/sympo16.html>